

## 特集：卒業

## 生物学類学生表彰を受賞して —後輩のみなさんへメッセージ—

須黒 達巳（筑波大学 生物学類 4年）

生物学類学生表彰（学類長表彰）—よもやこんなものをいただくとは思っていませんでした。私はお世辞にも成績が良いとは言えませんし、学類のために尽力した覚えも特にございません。私が他の人より勝っているものがあるとすれば「ハエトリグモが好きなきもち」、本当にこれぐらいです。非常にライバルの少なそうな要因ですね。ですが、さてこの文章をお読みの方のみなさんの中で私に「ハエトリグモが好きなきもち」で勝てる方がいるだろうかと問われたら、自信を持って「いない」と断言します。もしいらっしゃればぜひ一緒に採集に行きましょう。とにかくそのくらい、私はハエトリグモが好きです。起きている間はハエトリグモか彼女のことしか考えていないと言っても過言ではありません。そんな非常に偏った頭の私が、学類長表彰などというありがたい賞を賜り、この度つくば生物ジャーナルに文章を書く機会をいただきました。せっかくですから今回は、後輩たちに読んでもらえればというつもりで、思いっきり先輩面をして偉そうなことを書きます。この時点で編集委員の方は「こいつに頼むんじゃないか」と後悔されているかもしれませんが、無事にこの原稿が掲載されることを祈り、綴ります。未熟で生意気な文章ですから、願わくば、あまり先生方、先輩方のお目にふれることがありませんよう。

さて後輩諸君。まず先に私のことを少し書かせてください。須黒先輩はどんなすごい研究をして学類長表彰を受賞したんでしょう！私がやっているのは分類学です。ご存じの通り分類学は、「区別できるもの同士を分け、同じもの同士をまとめ、それぞれに名前を与え、関係を整理する学問」といったところです。既知種と区別できるものを新種として発表したり、過去に発表されたいくつかの種を「実は同じものだった」とまとめたり、どの属・どの科に所属するのかを再検討したり、というのが主な仕事です。私の卒業研究の内容は、ざっくり言うと「似ているが模様で区別できる3タイプのハエトリグモを、いろんなところを見比べたらそのうち1つは別種といえるくらい違っていたので新種として記載した」、文字にすればこれだけです。研究を始めたきっかけは、2年の夏に友達と訪れた宮古島で「これは新種かもしれないねえ…！」というハエトリグモを見つけたことです。その時まで私は、ハエトリグモが好きで写真を撮っているだけの、ただの阿呆面の男の子でした。そう、そのあなたと同じようにです。いや失礼。私は、このハエトリグモが新種かどうかきちんと調べてみたいと思いました。それで思いきって、ハエトリグモを研究されている有名な先生にメールを送ってみました。ここから私は、ただの阿呆面の男の子ではなくなっていくます。その先生を通じて、クモの愛好会や学会の方と知りあうことができ、たくさんのお話を学び始めたのです。新種であるかどうかを検討するには、写真ではなく標本を残しておかなくてはならないこと。たくさん

標本を見ればならないこと。標本の作り方やラベルの書き方、採集の方法、文献の探し方など。この頃から、今の指導教官である八畑先生の研究室に、顕微鏡を借りて出入りするようになりました。卒研ですらなかった私に研究の場を与えてくださり、いろいろ面倒を見てくださった先生や先輩方には心より感謝しています。

長くなってもいけないので端折ります。当初は特に「研究」という意識もなく、ただ面白くて標本をいじくり回していた私でしたが、続けていけば成果は上がるもので、4年生の夏について新種記載論文を投稿し、秋に受理されるに至りました。その業績が認められてか、卒業時には学類長から表彰をいただき、これからは頑張ろうと、今は鼻緒を締め直しているところです。

というのが私の話ですが、この経験から後輩のみなさんに伝えたいことが2つあります。

まず、好きなことはとことんやってください。ありきたりですね。でもこの言葉がありきたりなのはそれだけ、そう感じた先人が多いからだと思います。好きなことに打ち込む過程を通して得られるものはたくさんあるし、何かに熱中している人は人生楽しそうです。そういう人を「輝いている」と言うのでしょうか。好きなことというのは研究でもスポーツでも音楽でも絵でもゲームでも何でも良いと思います。自分が一番エネルギーを注ぎたいことが趣味なのであれば、勉強や仕事は合格点ギリギリをとればよしとし、あとは趣味に費やせば良いと私は思っています（ちゃんと合格点はとってください）。とにかく自分の人生の中で、「輝ける瞬間」を持ってください。

そして、自分と同じフィールドの人脈を広げることを心がけてみてください。一人で仙人のように修行を積むのも良いかもしれませんが、同じ志をもつ人たちとふれあうことで得られるものは非常に大きいことを私は感じました。それは「好きなこと」にとっても、それに限らず人生全体にとってもきっとプラスになります。私の研究は、それに関連して知り合えたたくさんの方々なしには今の点まで達しなかったでしょうし、そうした方々と杯を交わしながらクモ談義・研究談議に花を咲かせる時間は何にも代え難い楽しいものです。ぜひ勇気を出して、それぞれの世界に飛び込んでみてください。

…というわけで、私の「先輩ごっこ」にお付き合いいただきありがとうございます。みなさんに「これこそは」と思える「好きなこと」が見つかること、それを通じて今後たくさんの方との素敵な出会いと経験が待っていることを心よりお祈りしています。

最後になりますが、この度駄文掲載の機会をくださったつくば生物ジャーナル編集委員の方々にはこの場をお借りして深く感謝申し上げます。